

平成 21 年 8 月 10 日

エルニーニョ現象時の梅雨明け時期の傾向

2009 年 7 月は、沖縄・奄美など一部の地方を除き、全国的に曇りや雨の日が平年と比べても多くなりました。日照時間は日本海側で記録的に少なくなり、九州北部地方から東海地方にかけては、梅雨明けが記録的に遅くなりました(表 1)。また、降水量は北日本で記録的に多くなったほか、「平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨」も発生しました。

このような天候をもたらした要因の 1 つに、今回のエルニーニョの影響があったと考えられます(異常気象分析検討会(平成 21 年 8 月 3 日)の検討結果より)。エルニーニョ現象発生時の梅雨明けの時期は、関東甲信地方を除いて遅い傾向があります(図 1)。

表1 各地域の梅雨明けの時期(8月10日現在)

	梅雨明け(頃)		
	2009年速報値 (遅い方からの順位)	平年日	最遅日
東北北部		7月27日	8月14日(1991)
東北南部		7月23日	8月9日(1987)
北陸	8月4日(4位)	7月22日	8月14日(1991)
東海	8月3日(1位)	7月20日	8月2日(1954)
近畿	8月3日(1位)	7月19日	8月1日(2003)
中国	8月4日(1位)	7月20日	8月3日(1998)
四国	7月31日(2位タイ)	7月17日	8月2日(1954)
九州北部	8月4日(1位)	7月18日	8月3日(1998)

遅いほうからの順位は、梅雨明けを特定できなかった1993年を除く。遅い方から5位以内のみ掲載。

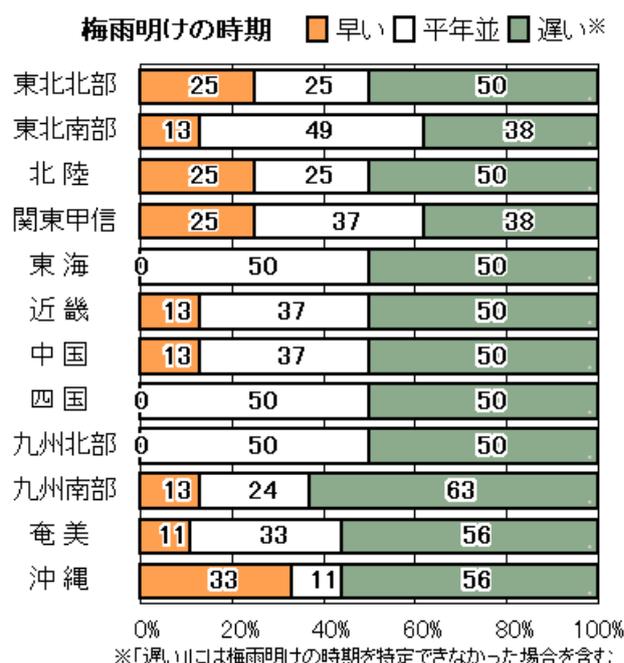


図 1 エルニーニョ現象発生時の梅雨明けの時期の傾向
棒グラフ上の数字は出現率を示しています。